【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 1 日（11 月 7 日午前)】出場選手コメント

◆女子 400m　T13　予選
佐々木 真菜（東邦銀行）
（暑さもあり）、アップでも走らないように言われ、初めての予選一発で感覚を確かめながらの走りで不安もあったが、よかった。トラックは私には硬めに感じて、私には走りやすかった。
　4 と 6 レーンに速い人がいて、付いて行こう思った。アウトレーンの人が 300m で落ちたが私は気持ちよく走れていたので、記録につながり、決勝に進出できた。58.65 はかなりいい方向。決勝ではメダル獲得と記録を狙いたい。
暑さは午前中が一番暑いので、決勝はいいコンディションでできると思う。

◆男子 100mT54　予選
・生馬　知季(WORLD-AC)
　スタートがよく、ポンと出られたので、誰も視界に入らず、最初は落ち着いて走れたと思う。ここ数日、精神状況も落ち着いているので、このペースでまた、自信を持って準決勝までの時間を過ごしたい。明日の決勝に上がるのが大前提の目標。最低ラインだと思っているので、必ず上がり、さらに、その上に上がります。

トラックの感触は、自分の好きな感触の、押したときの食いつきがいいトラックなので夜になって少し気温が下がると思うので、少し質感が変わったとき、どうなのかなというところはあるが、しっかり調整したい。14 秒 37 は、今季ではまずまずのタイム。厳しい戦いになっていくと思うが、さらにいいタイムを作れるように頑張ります。

・西 勇輝（野村不動産パートナーズ）
　僕自身、初戦ということもあり、大会の運営の流れなどはつかみきれないまま、コールルームにいく感じになったが、気温や暑さもあり、不安もあったが、集中して自分の競技時間に向けては集中して準備はできた。世界との差はとんでもないほどあるあるが、100m の自分のできるパフォーマンスはこんなもんかなと思った。
　コールルームの厳しさや時間の厳しさは異なるが、今回、把握できたので、400, 800 に関しては、もっと集中できると思う。ネガティブな感情は忘れて、次に集中したい。
車いすにとっては走りやすいトラック。ベストのパフォーマンスを出せば、ベストのタイムを狙っていけたらいい。

（コメント協力：星野恭子）